

序

気象研究所は、平成 26 年度から 5 年間の経常研究として「沿岸海況予測技術の高度化に関する研究」を実施し、日本沿岸海況監視予測システム（JPN システム）の開発を行った。令和元年度からは新たな 5 年間の経常研究として「地球システム・海洋モデリングに関する研究」を実施し、引き続き JPN システムの利活用促進のための研究を実施している。

JPN システムは、観測事実と数値モデルで表現される物理法則に基づき、日本周辺の海洋の状態を高い精度で再現することが可能である。また JPN システムは、潮汐や河川の効果を表現できることから、潮流や塩分などの海況要素の出力が可能となった。JPN システムのデータは、高い信頼度をもつ海洋データとして、海況監視、海況予報等の海況業務や、水産、気候に関する研究や業務で広く活用され、海況サービスに革新をもたらす可能性があると考えている。

気象研究所では、JPN システムの開発の一環として、2008 年から 2017 年までの 10 年間の再解析を実施した。今回、「JPN Atlas 2020」として、様々な海況要素に関する月平均、標準偏差の気候図として、その成果を図情報にまとめた。本アトラスを利用することにより、日本周辺の主要な海況要素の平均的な特徴を、2km という高い空間分解能で把握することができる。本アトラスが、JPN システムの現業的な利用のみならず、研究や教育に活用されれば幸いである。

気象庁海洋気象課、海洋気象情報室の各位には、JPN システム開発にあたり、ご指導、ご支援をいただいた。また、国内の海洋研究者の方々からも貴重なご意見をいただいている。ここに厚く御礼申し上げる。

令和 2 年 3 月
気象研究所全球大気海洋研究部長
前田修平